# 時空艦隊

天照

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
時空艦隊

【Ｎコード】
Ｎ１９１７Ｃ

【作者名】
天照

【あらすじ】
第二次世界大戦のミッドウェー、この敗戦を覆すべく霧の中から巨大空母が出現した・・・

## 第一章：巨大空母出現（前書き）

初めての投稿なのでわかりづらい点もただありますが、よろしくお願いします

# 第一章：巨大空母出現

これはフィクションです。実際の人物、団体、出来事など全て関係ありません

第二次世界大戦時のミッドウェー、日本はこの戦いを気に敗戦へと流れ落ちていくはずだった。
現在、南雲長官率いる最強の連合艦隊がそのミッドウェーに戦いを挑まんと艦を進めていた・・・
「辺りに霧が立ち込めてきましたね。」南雲長官の参謀である草鹿が言う
「うむ、艦隊どうしの衝突だけは避けたいな・・・」
とそこへ一つの通信が入電した。
「ふむ・・・」と南雲長官は首を傾げる
「こんなところで無線封止を破るのはどこのどいつでしょうね？」

と草鹿
もともと作戦を開始し敵地に出向いている時に無線をつかうなど言語道断である。これがもし敵に傍受されていたら・・・そんなことはあってもなくても軍法会議ものである。その無線の内容はこんなものであった『我等は愛国者艦隊である。ミッドウェーでの敗戦を覆すために連合艦隊へ参戦いたす
なお我が艦隊は独自の判断より行動させていただく。船を外から見るのは自由だが、内部への観覧は一切拒否させていただく』
明らかにふざけた内容だが、こんな時に無線封止を破る部下など存在するわけがない
「なんなんだこれは！」さすがの南雲長官も怒りが消えないすると、『なお、我が艦隊は超微弱電波により敵に傍受される心配はない。これよりは貴艦隊の目となり情報を伝達いたす。』

「何処からの信号だ」
すぐに冷静になった南雲が通信司令官に聞く
「はい、微弱ではありますが我が艦の左側からのようです」
ちなみに右側には空母
「加賀」いる。南雲は左側を目を凝らしてみていると、霧の中から赤城や加賀を上回る巨大な空母が現れた・・・

## 第二章：空母の目的（前書き）

この話しではあまりストーリーは進みません（^ー^；

## 第二章：空母の目的

南雲は自分の目を疑った、それもそのはずどこからともなく霧の中から巨大な空母が出現したからだ。
大きさというと本土の機密艦である『大和』ぐらい有りそうだが、もしかするとそれ以上かと予想される
こんな巨大な空母が味方になるのが信じられなかった。
今、赤城ではこの無線の内容と巨大空母についての会議中だった
この空母の大きさからすると約２００機は搭載している。と予想された
敵のスパイと言う意見もでたが、すぐに却下された。何しろ『大和』並の大きさである
こんなのをスパイにするほどアメリカも愚かではないと南雲考えていた会議の末、信用とまでは行かないが、巨大空母の協力を許可する。と言う結論になった
それに合わせるように巨大空母から通信が入った
『結論は出たかね？』
その応答に、南雲が
『貴公らの支援に感謝する。願わくは、貴公の船の中を見させていただきたい』
しばらく通信が途絶えた。その間に霧が晴れ、赤城を威圧するように巨大空母は左舷へその姿を表した。
改めて見るが、恐ろしくでかい。南雲が見とれていると再び通信が入った
『失礼だか船の中身は見せることが出来ない。外見だけなら好きなだけ見てくれたまえ』
「ふむ・・・何か見せれない事情でもあるのだろうか」南雲の何気ない一言だがその考えは的中する『なお、我々は独自に行動し貴公らを支援していきたいと思っている』

ようは別行動するということだ。
『我々の船から赤城へ連絡員を派遣したいのだか・・・』
南雲はそれを了承し巨大空母の連絡員を赤城へ迎えた。その連絡員は若く、海軍に居る青年とそっくりだった。そしてこの青年からとんでもない事を南雲達は聞く事になる

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1917c/

時空艦隊

2010年10月8日13時36分発行